

ドーパミン D2 受容体遺伝子変異体：衝動性、依存性、強迫性行動の関連および連鎖研究。

[ブルーム K¹](#)、[シェリダン PJ](#)、[ウッド RC](#)、[ブレイバーマン ER](#)、[チェン TJ](#)、[カミングス DE](#)。

著者情報

1

テキサス大学健康科学センター、サンアントニオ 78284、米国薬理学部。

概要

薬物やアルコールを求める行動は、数十億人の社会に負担をかける数百万人の住民に影響を与える大きな世界的な問題となっています。ドーパミン作動性報酬経路は、習慣性行動の病因に頻繁に関係している。他の神経伝達物質も関与しているが、これまでにアルコール依存症、薬物依存、肥満、喫煙、病的賭博、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、トゥレット症候群と関連することが判明した唯一の分子遺伝学的欠陥他の関連する強迫行動は、ドーパミン D2 受容体遺伝子 (DRD2) のバリエーションです。この主題に関する利用可能なデータのこのレビューでは、DRD2 多型と衝動的付加的強迫行動 (IACB) の関連を確認する独立したメタ分析の数を報告します。

米国国立医学図書館 国立衛生研究所

検索データベース